

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記の検査項目につきまして、新試薬の採用に伴い、検査内容を変更させていただきますので取り急ぎご案内致します。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目/変更内容

案内書 掲載頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
69	1799	IgG4	基準値(単位)	11~121(mg/dL)	4.5~117(mg/dL)
79	1869	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	基準値(単位)	157~474(U/mL)	145~519(U/mL)

変更期日

- 平成 31 年 3 月 2 日(土)受付日分より

IgG4

全身性の自己免疫疾患「IgG4 関連疾患」の診断に重要な検査です。

このたび新たに開発された国内試薬による IgG4 の測定を開始いたします。新試薬は、測定原理にラッセクス比濁法の競合法を採用していることから、抗原過剰域におけるプロゾーン現象が回避できる特徴を有しています。また、基準値(添付文書記載)は、共同研究による日本人データをもとに設定されております。

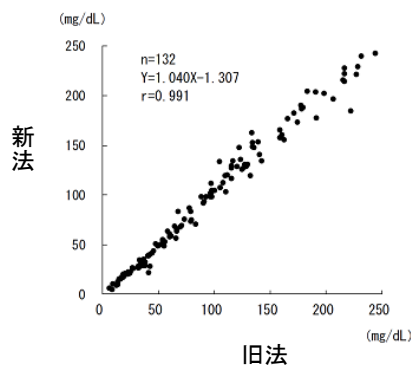
▼疾患との関連

IgG4関連疾患

▼関連する主な検査項目

病理酵素抗体染色

▼(参考)従来法との比較



●参考文献

松木 友里, 他: 医学と薬学 75(7):849~858, 2018. (検査方法参考文献)

川 茂幸: SRL 宝函 36(3):19~26, 2015. (臨床的意義参考文献)

可溶性インターロイキン-2 レセプター (sIL-2R)

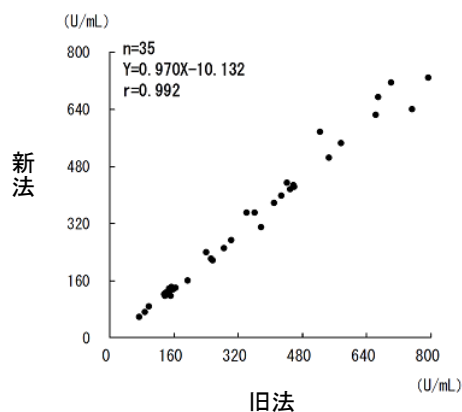
新規開発試薬による可溶性インターロイキン-2 レセプターの測定を開始いたします。

可溶性インターロイキン-2レセプターは、非ホジキンリンパ腫や ATL では病態の変化を鋭敏に反映するため、治療経過のモニタリングや寛解後のフォローに有効とされています。このたび新規開発試薬による可溶性インターロイキン-2 レセプター(sIL-2R)を受託開始いたします。基準値は、メーカー設定値です。

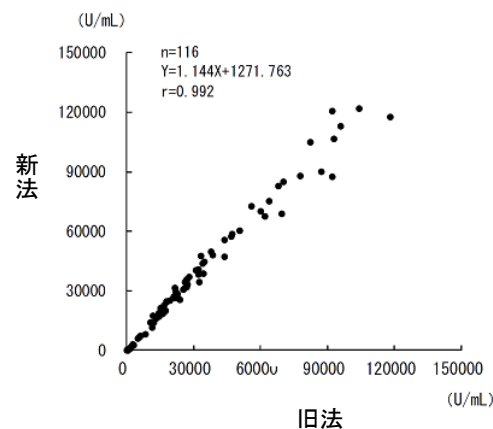
▼疾患との関連

非ホジキンリンパ腫
ATL

▼(参考)従来試薬との比較 (低値域)



(全体)



●参考文献

林 圭織, 他: 医学と薬学 75(12):1611~1620, 2018. (検査方法参考文献)

田中 信介: 臨床免疫 24(11):1554~1561, 1992. (臨床的意義参考文献)